

PRAEVIDENTIA DAILY (12月18日)

昨日までの世界：FOMCで米株、金利、ドルが上昇

昨日は、注目されたFOMCで、これまでの指標結果を受けて労働市場が更に改善したとの認識を示し、原油安は米経済にとって差引プラスとの見方が示されると同時に、利上げ開始に向けた期間の長さを示すフォワードガイダンスにおいて、正常化開始まで忍耐強くあることができる、として新たな表現を用いたが、同時に利上げまでに「相当な期間」ゼロ金利を維持することが適切、というこれまでの表現と同じであるとして併記されたこととなったことから、全体としてこれまでの来年央に向けた利上げ開始姿勢の確信度の高まりを示すこととなった。この結果、米株価は過度のタカ派化がないことを確認して上昇、米中長期債利回りはこれまで原油安を受けて下がり過ぎていた水準から反発し、ドルも対主要通貨で上昇するという、理想的な反応となった。

ドル/円相場は、FOMCに向けて116円台前半から117円台半ばへじり高となった後、FOMC会合結果発表直後は上下に振れたものの、Yellen議長記者会見を受けてドルが続伸し、一時118.89円と119円回復に迫る勢いとなった。ユーロ/ドル、ポンド/ドルなど、主要通貨の対米ドル相場は総じて同様の動きとなったが、豪ドル/米ドル相場は米ドル高を受けて一時0.8104ドルへ下落し年初来安値を更新した。

この間、ギリシャ議会では大統領を選出する投票が行われたが、連立与党が擁立したディマス候補は定数300票のうち160票と、今回および次回23日の第2回投票での選出に必要な200票だけでなく、29日の第3回投票での選出に必要な180票にも及ばず、連立与党の議席数(155票)に5票しか加えることができない結果となり、解散・総選挙という最悪シナリオ実現の可能性が高まったが、現在のところはFOMCが市場の焦点だったこともあり、為替相場の反応は殆どみられなかった。

主要通貨ペアの前営業日比変化率と、連動性が高い金利・株価・商品市況の変化

	変化率	米日2年金利差	米2年金利	日2年金利	米日10年金利差	米10年金利	日10年金利	米株価	日株価	原油Brent
ドル/円	+1.9	+0.06	+0.06	-0.00	+0.07	+0.06	-0.00	+2.0	+0.4	+1.3
	変化率	独米2年金利差	独2年金利	米2年金利	独米10年金利差	独10年金利	米10年金利	欧株価	米株価	西伊の対独格差
ユーロ/ドル	-1.4	-0.06	+0.00	+0.06	-0.08	-0.01	+0.06	-0.0	+2.0	-0.01
	変化率	英米2年金利差	英2年金利	米2年金利	英米10年金利差	英10年金利	米10年金利	英株価	米株価	
ポンド/ドル	-1.1	-0.04	+0.02	+0.06	-0.07	-0.00	+0.06	+0.1	+2.0	
	変化率	豪米2年金利差	豪2年金利	米2年金利	豪米10年金利差	豪10年金利	米10年金利	米株価	中国株価	CRB
豪ドル/米ドル	-1.2	-0.11	-0.05	+0.06	-0.15	-0.09	+0.06	+2.0	+1.3	+0.5
	変化率	NZ-米2年金利差	NZ2年金利	米2年金利	NZ-米10年金利差	NZ10年金利	米10年金利	米株価	中国株価	CRB
NZドル/米ドル	-1.2	-0.06	+0.00	+0.06	-0.10	-0.04	+0.06	+2.0	+1.3	+0.5
	変化率	米加2年金利差	米2年金利	加2年金利	米加10年金利差	米10年金利	加10年金利	米株価	原油WTI	CRB
米ドル/加ドル	+0.0	+0.01	+0.06	+0.05	+0.00	+0.06	+0.06	+2.0	+0.8	+0.5

(注) 為替相場、株価および商品価格は前営業日比変化率、金利は前営業日比変化幅(%ポイント)。

(出所) トムソン・ロイター、プレビデンティア・ストラテジー

きょうの高慢な偏見：原油と株価の悪循環は断ち切れたか？

きょうの注目通貨：USD/JPY ↑

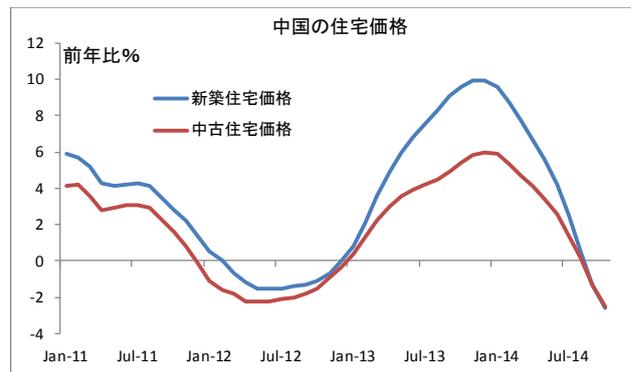
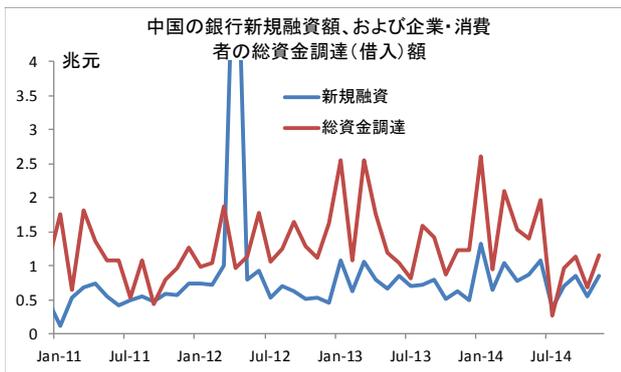
きょうの指標、イベント	時刻	前期	市場予想	備考
中国 11 月新築住宅価格・前年比	10:30	-2.6%		
ドイツ 12 月 Ifo 景況感指数	18:00	104.7	105.4	
英 11 月小売売上高・前月比	18:30	+0.8%	+0.3%	
同除く燃料		+0.8%	+0.3%	
米新規失業保険申請件数	22:30	29.4 万件	29.5 万件	
米 12 月フィラデルフィア連銀サーベイ	0:00	40.8	27.0	
Yellen・FRB 議長発言				

(出所) トムソン・ロイター等を基にプレビデンティア・ストラテジー作成

本日は、昨日の FOMC 結果を受けた米中長期債利回り上昇と米株価上昇という二重の追い風を受けて、本邦株価の続伸と共にドル/円も一段高の可能性が出てきた。また、FOMC 後に原油価格は振るわなかったが米株価が上昇し、両者の負の連鎖が途切れた可能性があるのも朗報かもしれない。

その他、重要イベント通過で経済指標への注目度は相対的に低下するが、敢えて言えば中国の不動産バブル崩壊の症状の一つである住宅価格が注目される。既に上昇率はマイナスとなっているが、更にマイナス幅が拡大するようだと、中国景気への懸念から豪ドルや NZ ドルが悪影響を受けるリスクがあるほか、全般的なリスクオフムードを強めドル/円にも下押し圧力となるリスクがある。

ドイツ Ifo 景況感指数は、既発表のユーロ圏景況感指数と同様に小幅改善が予想されており、ユーロ下支え要因だが、既にニュース性は薄れていることから市場の反応は限定的となるかもしれない。



ディスクレイマー

当資料は情報提供のみを目的として作成されたものであり、金融商品の売買や投資など何らかの行動を勧誘するものではありません。ご利用に関しては、全てお客様自身でご判断下さいますようお願い申し上げます。
 当資料は信頼できるとされる情報に基づいて作成されていますが、当社はその正確性を保証するものではありません。内容は予告なしに変更することがありますので、予めご了承下さい。
 当資料は著作物であり、著作権法により保護されています。全文または一部を転載する場合は出所を明記して下さい。当資料は購読者向けに送付されたものであり、購読者以外への転送を禁じます。

プレビデンティア・ストラテジー株式会社
 金融商品取引業者(投資助言・代理業) 関東財務局長(金商)第 2733 号
 一般社団法人 日本投資顧問業協会 会員番号 012-02641